

景気動向指数 CI のダウンロードと作図 2017

：「今回景気拡大がいざなぎ景気を超える」は本当か嘘か？

法政大学経営学部教授 林 直嗣

<内閣府の発表と新聞の報道>

「日本経済新聞 2017/11/8 14:02

2012年12月に始まった今の景気拡大の長さが高度成長期の「いざなぎ景気」を超え、戦後2番目の長さになった。内閣府は8日発表した9月の景気動向指数(CI、2010年=100)の基調判断を最も強気の「改善を示している」に11カ月連続で据え置いた。公式には時間をおいて判断するが、暫定的に今の景気拡大は9月で58カ月間に達した。

CIは生産や雇用などの経済指標の動きを総合して算出し、景気の方角感を示す。景気回復の期間などは正式には専門家をつくる内閣府の研究会が決めるが、内閣府はCIをもとに毎月、景気の基調を機械的に判断している。

茂木敏充経済財政・再生相は9月25日の月例経済報告で既に現在の景気は「いざなぎ景気を超えた可能性がある」との認識を示していた。今回の景気動向指数の判断により、これが暫定的に確認された。

いざなぎ景気は1965年11月から70年7月まで57カ月間続いた。今の景気拡大が2019年1月まで続けば、02年2月から73カ月間続いた戦後最長の景気回復を抜くことになる。」

<景気動向指数 CI のダウンロード>

- ・以上の記事が正しいか間違っているか、実際のCIデータをダウンロードして検証する。
- ・先ず内閣府⇒統計・調査⇒景気動向指数⇒統計表一覧⇒長期系列、の順番でデータを検索し、ダウンロードすると、以下のようなエクセル・ファイルが得られる。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1							(参考)「外れ値」処理なし					
2				CI指数 (H22=100)			CI指数 (H22=100)			DI指数		
3							(for reference) no outlier replacement					
4				Composite Indexes (2010=100)			Composite Indexes (2010=100)			Diffusion Indexes		
5	和暦	西暦	月	先行指数	一致指数	遅行指数	先行指数	一致指数	遅行指数	先行指数	一致指数	遅行指数
6	Japanese year	Calendar year	Month	Leading Index	Coincident Index	Lagging Index	Leading Index	Coincident Index	Lagging Index	Leading Index	Coincident Index	Lagging Index
64	59	1984	10							50.0	66.7	100.0
65	59	1984	11							63.6	88.9	77.8
66	59	1984	12							63.6	88.9	88.9
67	60	1985	1	85.7	94.5	100.4	89.2	93.3	99.7	54.5	88.9	94.4
68	60	1985	2	85.9	93.9	99.8	89.5	92.8	99.0	45.5	61.1	77.8
69	60	1985	3	85.8	94.3	100.5	89.3	93.1	99.7	40.9	72.2	77.8
70	60	1985	4	86.4	94.9	101.3	90.0	93.8	100.5	63.6	55.6	66.7
71	60	1985	5	86.4	95.0	101.3	90.0	93.8	100.3	54.5	72.2	83.3
72	60	1985	6	85.6	94.4	101.7	89.1	93.3	100.7	45.5	66.7	61.1
73	60	1985	7	85.4	95.1	102.8	89.0	94.0	101.8	45.5	50.0	61.1
74	60	1985	8	84.0	94.5	102.9	87.6	93.4	102.0	22.7	33.3	77.8
75	60	1985	9	84.2	94.3	102.6	87.8	93.2	101.4	36.4	33.3	55.6
76	60	1985	10	83.9	94.5	101.7	87.4	93.4	100.5	27.3	22.2	33.3
77	60	1985	11	83.2	94.3	102.2	86.3	93.2	101.1	36.4	44.4	33.3
78	60	1985	12	83.1	93.7	102.7	86.3	92.5	101.6	27.3	44.4	55.6
79	61	1986	1	83.7	93.7	102.5	87.2	92.6	101.3	45.5	38.9	66.7
80	61	1986	2	83.0	93.4	102.8	86.3	92.3	101.7	36.4	44.4	66.7
81	61	1986	3	82.7	93.0	102.3	86.2	91.9	102.4	27.3	44.4	61.1
82	61	1986	4	82.1	93.0	100.4	85.9	91.9	100.1	36.4	33.3	44.4

・以前はディフュージョン・インデックス DI が用いられていたが、(1)トレンドからの乖離部分だけを意図的に分離・抽出するので上昇トレンドか下降トレンドかを無視してそ

の判別ができない、(2) 振幅の大小に拘わらず一律 0~100%の幅に固定して捉えるので現実の振幅の大きさを無視している、という 2 大欠陥を持つ。そこで 2008 年以降は両者の欠陥を克服し、(1) 上昇トレンドか下降トレンドか正確に捉えられる、(2) 振幅の大きさを現実の通りに正確に捉えるため、コンポジット・インデックス CI を用いるようになった。

・そこでこの時系列データから、E 列の CI 指数の一致指数を 1985 年 1 月から 2017 年 9 月まで複写して新規ファイルの B 列 2 行目から貼り付ける。

・A 列 2 行目に「Jan-1985」と入力し、A 列 3 行目に「Feb-1985」と入力し、カーソルでこれら 2 つのセルを反転させ、A 列 3 行目のセルの右下の黒十字「+」にカーソルを合わせ、左ダブルクリックする。すると、最下行まで年月が自動記入される。

(表 1)

	A	B
1		CI
2	Jan-85	94.5
3	Feb-85	93.9
4	Mar-85	94.3
5	Apr-85	94.9
6	May-85	95.0
7	Jun-85	94.4
8	Jul-85	95.1
9	Aug-85	94.5
10	Sep-85	94.3
11	Oct-85	94.5
12	Nov-85	94.3
13	Dec-85	93.7
14	Jan-86	93.7
15	Feb-86	93.4
16	Mar-86	93.0
17	Apr-86	93.0
18	May-86	92.2
19	Jun-86	92.1
20	Jul-86	91.3
21	Aug-86	91.1
22	Sep-86	92.1
23	Oct-86	91.8
24	Nov-86	91.2
25	Dec-86	92.1
26	Jan-87	92.4
27	Feb-87	92.8
28	Mar-87	93.7
29	Apr-87	93.8
30	May-87	94.4
31	Jun-87	96.4
32	Jul-87	97.7
33	Aug-87	98.6
34	Sep-87	100.3
35	Oct-87	101.5
36	Nov-87	102.6
37	Dec-87	103.7

(表 2)

316	Mar-11	97.4
317	Apr-11	95.8
318	May-11	98.0
319	Jun-11	100.5
320	Jul-11	102.1
321	Aug-11	103.3
322	Sep-11	104.0
323	Oct-11	106.0
324	Nov-11	104.3
325	Dec-11	106.7
326	Jan-12	107.1
327	Feb-12	108.1
328	Mar-12	109.4
329	Apr-12	107.8
330	May-12	107.2
331	Jun-12	105.2
332	Jul-12	104.5
333	Aug-12	104.5
334	Sep-12	103.0
335	Oct-12	102.8
336	Nov-12	102.4
337	Dec-12	104.0
338	Jan-13	104.6
339	Feb-13	105.5
340	Mar-13	106.5
341	Apr-13	107.0
342	May-13	108.2
343	Jun-13	107.8
344	Jul-13	109.5
345	Aug-13	110.2
346	Sep-13	111.6
347	Oct-13	112.9
348	Nov-13	113.6
349	Dec-13	114.0
350	Jan-14	116.8
351	Feb-14	115.4
352	Mar-14	117.6
353	Apr-14	114.0

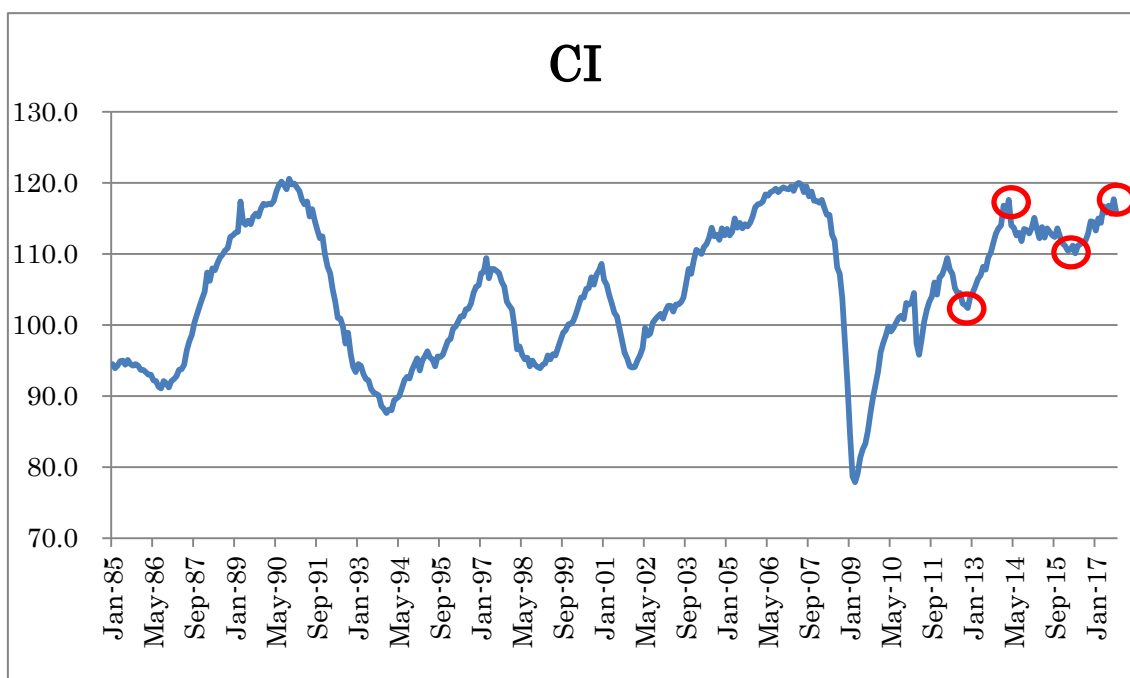
(表 3)

354	May-14	113.7
355	Jun-14	112.6
356	Jul-14	113.0
357	Aug-14	111.8
358	Sep-14	113.5
359	Oct-14	113.4
360	Nov-14	112.9
361	Dec-14	113.7
362	Jan-15	115.1
363	Feb-15	113.5
364	Mar-15	112.2
365	Apr-15	113.8
366	May-15	112.3
367	Jun-15	113.6
368	Jul-15	113.1
369	Aug-15	112.6
370	Sep-15	112.4
371	Oct-15	113.6
372	Nov-15	112.5
373	Dec-15	111.5
374	Jan-16	111.2
375	Feb-16	110.5
376	Mar-16	110.6
377	Apr-16	111.2
378	May-16	110.1
379	Jun-16	111.2
380	Jul-16	111.4
381	Aug-16	111.6
382	Sep-16	111.9
383	Oct-16	112.9
384	Nov-16	114.6
385	Dec-16	114.5
386	Jan-17	113.3
387	Feb-17	115.0
388	Mar-17	114.4
389	Apr-17	116.7
390	May-17	115.8
391	Jun-17	116.8
392	Jul-17	115.7
393	Aug-17	117.7

<景気動向指数 CI の作図>

・B 列 1 行目に「CI」と入力し、A 列 1 行目から B 列最下行までカーソルで反転させて、挿入⇒グラフ⇒折れ線とクリックすると、以下のようにエクセル・グラフが描ける。

- ・挿入⇒図形⇒○をクリックし、下図のように底と天井の4箇所に張り付け、赤色にする。
(図1)



<景気変動の理論的定義>

経済理論上は、以下のように定義される。

景気拡大=2 四半期 (3 ヶ月平均×2) 以上続けて景気が上昇すること

景気後退=2 四半期 (3 ヶ月平均×2) 以上続けて景気が下降すること

四半期とは3 ヶ月であるので、月次データを使う場合は3 ヶ月平均値が2 回以上続けて上昇、または下降することが必要である。月次で6 ヶ月以上上昇、または下降すれば、この必要条件は満たされる。

<統計データの検証と分析>

- ・2011年3月には東日本大震災により景気は落ち込み、翌4月にはCIは95.8と底・ボトム(表2の茶色)を打った。翌5月からは6ヵ月連続で景気回復し、2012年3月には109.4と天井・ピーク(表2の黄色)を打った。

- ・しかし2012年4月からは8ヵ月連続で景気は後退し、2012年11月には102.4と底を打った。

- ・2012年11月の底から、漸くほぼ震災ショックから立ち直り、翌12月から6ヵ月以上続けてCIが反転上昇しており、この景気上昇過程は16ヵ月続いた。

- ・2014年3月に117.6の天井に達したが、4月の消費増増税によって景気は急激に後退し、3ヵ月平均値が2回以上続けて、合計2四半期以上下落し続けたので、この消費税増税ショックによる景気後退は26ヵ月続いた。

- ・別の分析「経済統計のダウンロードと作図2017」で検証した通り、実質GDP成長率(前年同期比)は、2014年4~6月期から2015年1~3月期まで4四半期=1年に亘ってマイナ

ス成長を記録し、消費税増税ショックによる景気後退、不況は明確である。

・2016年5月に110.1の底を打ち、マイナス成長の不況をもたらした消費税増税ショックから漸く回復し、翌6月から6ヵ月以上続けてCIが上昇し続けていて、今回の景気上昇過程は15ヵ月続いている。2017年8月には117.7の天井に達している。

<内閣府報告と報道記事の真偽の検証>

・記事では「2012年12月に始まった今の景気拡大」というが、この景気拡大は2012年11月の102.4の底から2014年3月の117.6の天井まで、16ヵ月続いただけで、終わっている。翌4月からは消費税増税ショックで景気は1年間に亘ってマイナス成長・不況に悪化し、2016年5月に110.1の底を打った。この景気後退は26ヵ月も続いた。「今の景気拡大は2016年6月から始まった」ので、「2012年12月に始まった今の景気拡大」という記述は経済理論を全く理解できていないし、統計データの検証も全く間違っている。消費税増税ショックによるマイナス成長と26ヵ月の景気後退を全く理解できていないだけでなく、それを「景気拡大」と詐称することは、事実と反する虚偽である。

・よって「高度成長期の「いざなぎ景気」を超え、戦後2番目の長さになった」という記述も全くの虚偽であり、経済理論を理解できていないだけでなく、統計的検証も全く杜撰である。

・よって「暫定的に今の景気拡大は9月で58ヵ月間に達した」という記述も全くの虚偽である。

・「茂木敏充経済財政・再生相は9月25日の月例経済報告で既に現在の景気は「いざなぎ景気を超えた可能性がある」との認識を示していた」というが、この認識も全く根拠がない間違いであり、経済理論を理解できていないだけでなく、統計的検証もできていない。

課題

内閣府からCIデータをダウンロードし、(表2)、(表3)、(図1)を作成してワードファイルに貼り付け、統計データの検証を10行書きなさい。そのファイルの上部に、学生証番号、学年、組、氏名を書いて、ファイル名を氏名として、指定のアドレスへ送信しなさい。(pdfファイルに変換しないこと。)